

令和4年7月10日（日）施行

第207回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解答

第1問

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1	仕 入	2,450,000	前 払 金	300,000
	仮 払 消 費 税	245,000	買 掛 金	2,395,000
2	備 品	2,600,000	普 通 預 金	2,600,000
3	未 収 金	960,000	有 価 証 券	1,062,000
	有 価 証 券 売 却 損	102,000		
4	繰 越 利 益 剰 余 金	2,300,000	損 益	2,300,000
5	普 通 預 金	3,250,000	資 本 金	3,250,000
6	租 税 公 課	120,000	当 座 預 金	120,000
7	貸 倒 引 当 金	350,000	売 掛 金	350,000

第2問

(ア)	¥ 6,000,000	(イ)	¥ 800,000	(ウ)	¥ 6,800,000
-----	-------------	-----	-----------	-----	-------------

第3問

< >の番号は伝票の No. を示す。

現 金			買 掛 金		
6/ 1	(借 入 金)	<1> [500,000]	6/30	(買 掛 金)	<45> [85,000]
買 掛 金			仕 入		
6/30	(現 金)	<45> [85,000]	6/15	(仕 入)	<19> [85,000]
借 入 金			仕 入		
			6/ 1	(現 金)	<1> [500,000]
仕 入					
6/15	(買 掛 金)	<19> [85,000]			

第4問

商 品 有 高 帳 X 商 品

令 和 4 年		摘 要	受 入			払 出			残 高		
			数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
5	1	前月繰越	100	580	58,000				100	580	58,000
	7	仕 入	400	620	248,000				100	580	58,000
									400	620	248,000
	13	売 上				100	580	58,000			
						300	620	186,000	100	620	62,000
	21	仕 入	300	650	195,000				100	620	62,000
									300	650	195,000
	26	売 上				100	620	62,000			
						250	650	162,500	50	650	32,500
	31	次月繰越				50	650	32,500			
			800		501,000	800		501,000			
6	1	前月繰越	50	650	32,500				50	650	32,500

第5問

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	526,000						526,000	
現金過不足	12,000			12,000				
当座預金	465,000						465,000	
普通預金	352,000						352,000	
売掛金	850,000						850,000	
貸倒引当金		5,500		20,000				25,500
繰越商品	661,000		732,000	661,000			732,000	
貸付金	2,000,000						2,000,000	
備品	3,000,000			600,000			2,400,000	
買掛金		771,000						771,000
借入金		2,500,000						2,500,000
資本金		5,000,000						5,000,000
繰越利益剰余金		500,000						500,000
売上		12,560,000				12,560,000		
受取利息		30,000				30,000		
仕入	8,468,500		661,000	732,000	8,397,500			
給料	2,258,000				2,258,000			
広告費	413,000		12,000		425,000			
交通費	325,000				325,000			
通信費	276,000		29,000		305,000			
消耗品費	294,000			31,000	263,000			
支払家賃	1,105,000				1,105,000			
水道光熱費	176,000				176,000			
租税公課	135,000				135,000			
支払利息	50,000				50,000			
	21,366,500	21,366,500						
貸倒引当金繰入			20,000		20,000			
減価償却費			600,000		600,000			
消耗品			31,000				31,000	
未払通信費				29,000				29,000
当期純損失						1,469,500	1,469,500	
			2,085,000	2,085,000	14,059,500	14,059,500	8,825,500	8,825,500

令和4年7月10日（日）施行

第207回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解説

第1問

1. 商品売買・手付金・税抜方式の処理

消費税を税抜方式で処理しているため、消費税額¥245,000は仮払消費税勘定を用いて処理をする。
代金のうち、以前支払っていた手付金¥300,000を充当する場合、前払金勘定の減少として処理をする。

以前手付金を支払った際の仕訳

(借)	前	払	金	300,000	(貸)	現	金	預	金	300,000
-----	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

残額¥2,395,000は掛けとしたので、買掛金勘定を用いて処理をする。

残額の計算 A商品¥2,695,000 － 手付金¥300,000 ＝ ¥2,395,000

2. 備品取得の処理

備品の購入時、配送料・据付費などの諸費用を支払う場合は、その諸費用は付随費用として、備品の取得原価に含める。

取得原価の計算 備品¥2,500,000 ＋ 付随費用¥100,000 ＝ ¥2,600,000

3. 株式の売却の処理

保有している株式を売却した場合、帳簿価額と売却価額の差額を有価証券売却益勘定、または有価証券売却損勘定を用いて処理をする。

帳簿価額 < 売却価額の場合、差額は有価証券売却益勘定を用いる。

帳簿価額 > 売却価額の場合、差額は有価証券売却損勘定を用いる。

帳簿価額 300株 × @¥3,540 ＝ ¥1,062,000

売却価額 300株 × @¥3,200 ＝ ¥960,000

本問では上記の通り、帳簿価額¥1,062,000 > 売却価額¥960,000であるため、差額¥102,000は、有価証券売却損勘定を用いて処理をする。

差額の計算 ¥1,062,000 － ¥960,000 ＝ ¥102,000

代金¥960,000は、2営業日後に受け取ることとしたので、未収金勘定を用いて処理をする。

4. 決算振替仕訳

当期決算において、当期純損失が算定された場合は、損益勘定の借方から繰越利益剰余勘定の借方へ振り替える処理をする。

当期純利益が算定された場合は、損益勘定の貸方から繰越利益剰余金勘定の貸方へ振り替える処理をする。

5. 会社設立時の処理

株式会社とは、株式を発行することによって広く投資家などから資金を募り、この資金を元手に事業活動を行っていく形態の会社である。投資家などの資金を提供した人を株主、出資者という株式会社設立に際し、株式を発行した場合には、資本金勘定を用いて処理をする。

資本金金額の計算 500株 × @¥6,500 ＝ ¥3,250,000

6. 固定資産税納付時の処理

店舗の土地・建物に関する固定資産税を支払った場合は、租税公課勘定を用いて処理をする。租税公課を費用の発生として借方に記入し、小切手を振り出して支払ったので、当座預金の減少として貸方に記入する。

7. 売掛金回収不能時の処理

前期に生じた売掛金が回収不能となった場合、貸倒引当金の残高がある場合は貸倒引当金勘定を用いて処理をする。回収不能になった売掛金については、売掛金の減少として貸方に記入する。

第2問

各金額の算定 計算することのできる空欄から求める。

期首貸借対照表・純資産（資本）（ア）

貸借対照表等式により求める。

$$\text{期首・資産} = \text{期首・負債} + \text{期首・純資産（資本）（ア）}$$

$$¥13,500,000 = ¥7,500,000 + \text{期首・純資産（資本）（ア）}$$

$$\text{期首・純資産（資本）（ア）} = ¥6,000,000$$

損益計算書 費用（イ）

損益法により求める。

$$\text{当期純利益（イ）} = \text{収益} - \text{費用}$$

$$\text{当期純利益（イ）} = ¥18,300,000 - ¥17,500,000$$

$$\text{当期純利益（イ）} = ¥800,000$$

期末貸借対照表・純資産（ウ）

財産法により求める。

$$\text{期末・純資産（ウ）} = \text{期首・純資産（ア）} + \text{当期純利益（イ）}$$

$$\text{期末・純資産（ウ）} = ¥6,000,000 + ¥800,000$$

$$\text{期末・純資産（ウ）} = ¥6,800,000$$

第3問

まず各伝票の取引の仕訳をする。

令和4年6月1日 入金伝票（No. 1）

（借）	現	金	500,000	（貸）	借	入	金	500,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

令和4年6月15日 振替伝票（No. 19）

（借）	仕	入	85,000	（貸）	買	掛	金	85,000
-----	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

令和4年6月30日 出金伝票（No. 45）

（借）	買	掛	金	85,000	（貸）	現	金	85,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

以上の仕訳を転記する。

第4問

5月7日 商品の仕入れ

受入欄に数量：400、単価：620、金額：248,000 を記入する。

前月繰越分の単価（@¥580）と5月7日仕入分の単価（@¥620）が異なるので、残高欄には合算して記入することができない。よって、残高欄には下記の通り、前月繰越分と5月7日仕入分を併記する。

{	前月繰越分	数量：100、単価：580、金額：58,000
	5月7日仕入分	数量：400、単価：620、金額：248,000

5月13日 商品の売り渡し

商品の払出単価の決定は先入先出法によるので、売り渡した400個のうち、前月繰越分100個（@¥580）を先に全て払い出す。残りの300個は、5月7日仕入分300個（@¥620）を払い出す。よって、払出欄には下記の通り、前月繰越分と5月7日仕入分を併記する。

{	前月繰越分	数量：100、単価：580、金額：58,000
	5月7日仕入分	数量：300、単価：620、金額：186,000

よって、残高欄には数量：100、単価：620、金額：62,000 を記入する。

5月21日 商品の仕入れ

受入欄に数量：300、単価：650、金額：195,000 を記入する。

5月7日仕入分の単価（@¥620）と5月21日仕入分の単価（@¥650）が異なるので、残高欄には合算して記入することができない。よって、残高欄には下記の通り、5月7日仕入分と5月21日仕入分を併記する。

{	5月7日仕入分	数量：100、単価：620、金額：62,000
	5月21日仕入分	数量：300、単価：650、金額：195,000

5月26日 商品の売り渡し

商品の払出単価の決定は先入先出法によるので、売り渡した350個のうち、5月7日仕入分100個（@¥620）を先に全て払い出す。残りの250個は、5月21日仕入分250個（@¥650）を払い出す。よって、払出欄には下記の通り、5月7日仕入分と5月21日仕入分を併記する。

{	5月7日仕入分	数量：100、単価：620、金額：62,000
	5月21日仕入分	数量：250、単価：650、金額：162,500

よって、残高欄には数量：50、単価：650、金額：32,500 を記入する。

5月31日 帳簿の締め切り

次月繰越の行には、残高欄の数量：50、単価：650、金額：32,500 を払出欄に記入し、受入欄と払出欄の合計欄に数量と金額の合計したものを下記の通り記入し、受入欄と払出欄の数量と金額の合計が一致することを確認する。

受 入			払 出		
数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
800		501,000	800		501,000

6月1日 帳簿の開始記入

前月繰越の行には、5月31日次月繰越の行に記入した数量：50、単価：650、金額：32,500 を受入欄と残高欄にそれぞれ記入する。

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の算定

期首商品棚卸高は、残高試算表・繰越商品勘定の借方残高より¥661,000 であることがわかる。

(借) 仕 入	661,000	(貸) 繰 越 商 品	661,000
繰 越 商 品	732,000	仕 入	732,000

2. 貸倒引当金の見積り

売掛金勘定の期末残高は、残高試算表より¥850,000 であることがわかる。

上記残高の 3.0% の貸し倒れを見積るので、貸倒引当金の見積額は、¥25,500 である。

貸倒引当金見積額の計算 $¥850,000 \times 3.0\% = ¥25,500$

貸倒引当金勘定の期末残高は、残高試算表より¥5,500 であることがわかる。

差額補充法により処理するので、貸倒引当金の繰入額は、20,000 である。

貸倒引当金繰入額の計算 $¥25,500 - ¥5,500 = ¥20,000$

(借) 貸倒引当金繰入	20,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	20,000
-------------	--------	---------------	--------

3. 減価償却費の計算

本文より、備品は当期首に取得したものである。備品の取得原価は、残高試算表・備品勘定の借方残高により¥3,000,000 であることがわかる。

定額法により減価償却費の計算を行うので、当期の減価償却費は¥600,000 である。

減価償却費の計算 $¥3,000,000 \div 5 \text{ 年 (耐用年数)} = ¥600,000$

直接法により記帳するので、備品勘定から直接控除する。

(借) 減 価 償 却 費	600,000	(貸) 備 品	600,000
---------------	---------	---------	---------

4. 現金過不足の処理

現金過不足の残高は、残高試算表・現金過不足勘定の借方残高により、¥12,000 であることがわかる。その¥12,000 は、広告費¥12,000 の記帳漏れが原因であることが決算時に判明したため、現金過不足勘定から広告費勘定に振り替える処理をする。

(借) 広 告 費	12,000	(貸) 現 金 過 不 足	12,000
-----------	--------	---------------	--------

5. 消耗品の未使用高

消耗品費の残高¥294,000 (残高試算表・消耗品費勘定の借方残高) のうち、消耗品の未使用分¥31,000 を消耗品勘定へ振り替える処理をする。

(借) 消 耗 品	31,000	(貸) 消 耗 品 費	31,000
-----------	--------	-------------	--------

6. 通信費の未払高 (見越し)

当期分の費用として、通信費¥29,000 を計上する。

通信費の支払いは次期以降になるので、未払通信費勘定を用いて処理をする。

(借) 通 信 費	29,000	(貸) 未 払 通 信 費	29,000
-----------	--------	---------------	--------